



桜 通 信

ホームページを更新中!

「<https://www.rmc.ne.jp/~sakuraok/>」または「桜谷小学校」で検索ください。QRコードでも読み取れます。



2学期 お世話になりました

年の瀬の慌ただしい時期になりました。今日で82日間の長い2学期が終わります。

漢字やカタカナの学習を始めた**1年生**。

「日野町一周マラソン」では全員が日野町一周を達成しました。のびのびした立体作品が素敵だった**2年生**。

地域の方に教えてもらった昔遊びを、今もみんなで楽しんでいます。好奇心いっぱい町内の工場や商店を見学した**3年生**。運動会では下学年のリーダーとして、頼りになる存在でした。小園交流で企画から運営まですべて自分たちの力でやり切った**4年生**。人権集会での、友だちの良さを紹介し合う発表が印象的でした。高学年として、運動会でも大活躍だった**5年生**。抜群のチームワークで全校ドッジボール



運動会 4,5,6年生「桜谷ソーラン46」

大会では実力を見せつけました。全員参加の修学旅行でかけがえのない思い出ができた**6年生**。日々の学校生活に向かう姿勢も全校の模範になりました。



全校長寸山登山

いよいよ明日から冬休みです。健康や安全に気をつけるとともに、家族の一員として家の仕事をしたり、書き初めや百人一首、昔遊びなどの日本の伝統文化に親しんだり、家族や親戚、

近所の人に新年の挨拶をしたりと、冬休みにしかできない体験も、できるといいですね。

3学期はこれまでに、全教職員で子どもの声に耳を傾けながら、子どもの



全校ノート展

伸びる芽を引き出していきたいと思っています。ご心配なことなどありましたら気軽に学校にお知らせください。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いします。

(文責：校長 北崎 あゆみ)

日野町青少年意見発表大会に出場

永遠の平和を願って

三月に「次世代戦跡訪問研修」に参加して、鹿児島を訪れました。それまでは、昔、戦争があったということくらいしか知りませんでした。また、広島や長崎は原子爆弾が落とされた地で、原爆ドームや平和公園のことは知っていましたが、鹿児島が戦争と大きな関係があったことも全然知りませんでした。

ぼくが戦跡訪問研修に参加しようと思ったきっかけは、五年生のとき、「永遠の0」という本を読み、映画を観たことからでした。「永遠の0」を通して戦争のことを知り戦争を二度と起こしてはいけない、そして、その傷跡や体験を後世に引き継いでいく必要があると考えるようになりました。

戦跡地訪問では鹿児島の多くの戦跡を案内していただきました。その中で特に心に残った三つの事を話したいと思います。一つ目は、特攻隊員のお父さんやお母さん、兄弟に向けた遺書を見せてもらったことです。特攻というのは、太平洋戦争の終わり頃、爆弾もろとも敵の船に体当たりした攻撃のことです。そのため特攻に行くように命じられたら、もう生きて戻ってこれないという意味なのだそうです。特攻隊員の中には17才くらいの人もいたそうです。遺書にはどれを見ても、「こわい」「死にたくない」とは書いてなかったけれど、本当は怖かっただろうし、将来の夢もあったかもしれません。それでも特攻隊員は、国のために飛び立たなければならなかったのです。自分と年が変わらない人達の遺書を見て、もっと長生きしたかったらと思うました。

二つ目は、「地下壕電信司令室」で、特攻隊員の最後の電信を聞かせてもらったことです。電信で「ツー」という音が消えたら、命が失われたことだと教えてもらいました。また、特攻隊員から一番多く流れてくる電信は、「お母さん」だったと聞きました。死を直前に、家族に向けた最後のメッセージを送る特攻隊員の様子が頭の中に浮かんで来て、ぼくは胸が熱くなりました。

三つ目は、富屋食堂で、知覧特攻隊員からお母さんのようにしたわれた鳥浜トメさんのお孫さんに聞いた話です。一人の若い特攻隊員が、「明日ホテルになって帰って来ます。」と言い残し出撃したところ、夜に、富屋食堂に、本当に一匹のホテルがやってきたそうです。さらに、富屋食堂にいた特攻隊員は、日本人ばかりではなかったという話も聞きました。ある朝鮮の人は、「わたしはこの国のためには行きません。でも、あなたたちのために行くのです。」という言葉を残して飛び立ったそうです。この言葉が、今でも頭から離れません。

戦争を体験した人がだんだん少なくなって、反対に、戦争のこわさを知らない人が増えていること、それ以前に、戦争があったことすら知らない人が増えていることも教えてもらいました。最近実施された高校生へのアンケートで、「沖縄で地上戦があったことを知らない人が9%いた」とも聞きました。「日本がまた戦争をしますか」というアンケートで、24%の高校生が「すると思う」と答えたこともわかりました。

戦争のこわさや悲惨さを知らない人がこんなふうに出てしまうのだと思うし、こういう考えをもつ人が多くなると戦争が起きるかもしれないと思います。もっとたくさんの方が沖縄や鹿児島に行ったことや戦争のこわさが分かると思います。ぼくは、鹿児島に行ったことや富屋食堂のトメさんのお孫さんの話を聞いたことで、考える機会を与えてもらい、よかったと思っています。

戦争を体験した人が減り、戦争のことを知らない人が増えています。だからこそのうちに、もっといろいろなことを勉強して、次はぼくが伝えていきたいです。そして一人でも多くの人に戦争について考えてもらい、戦争のない日本になってほしいと思っています。